

ライチョウ保護回復事業計画の評価検証結果について（概要）

1 ライチョウについて

- ・日本のライチョウは、本州中部の高山帯のみに生息し、県内では北・南アルプス、乗鞍岳、御嶽山に生息している。絶滅危惧の要因としては、登山者等が出すごみに誘引されるキツネやカラス等捕食者の増加、ライチョウの餌や生息環境となる高山植生のニホンジカによる食害等が考えられる。
- ・『長野県版レッドリスト（動物編）2015』で絶滅危惧 B類。指定希少野生動植物
- ・保護回復事業計画策定年度：平成 20 年度（2008 年度）

2 計画の目標・取組事項




(1) 計画の目標

ライチョウの生息環境の保全及び減少域での野生個体数の増加を図ること

(2) 取組事項

モニタリングの実施・分析、普及啓発活動の推進、高山植生の復元、飼育繁殖技術の確立、ニホンジカ個体数調整の推進、カラス捕獲の推進、スキーヤー等による影響の未然防止、情報収集活動

3 計画策定以降の対象種の動向

指 標	計画策定時	評 価 時	動向
なわばり数 北ア白馬岳 北ア常念山脈 乗鞍岳 御嶽山 南ア上河内岳	2009 年：13 1979-1981 年：82 2009 年：108 2008 年：35 2007 年：9	2017 年：13 2015 年：40 2017 年：68 2016 年：30 2014 年：6	
生息域外飼育羽数	2008 年：0	2017 年：26（全国） （うち大町山博：6）	
長野県ライチョウサポーターズ登録者数	2008 年：0	2015 年：67 2016 年：232 2017 年：326	
補足事項	については、近年の調査結果を過去のデータと比較している。 については、全国及び県内で飼育されているニホンライチョウの数とした。 については、県で登録したボランティアの「ライチョウサポーターズ」の人数とした。		

矢印凡例  増加  微増  横ばい  微減  減少

4 成果

生息状況調査により、各山域における生息数の変化と減少要因の解明が進んでいる。
 環境省等の取組により、ケージ保護等の捕食者対策や生息域外保全の技術開発が進んでいる。
 ライチョウサポーターズの養成等により、普及啓発と保護に関わる人材の育成が進んでいる。

5 専門委員会による保護回復事業計画の継続に関する判定と意見

(1) 計画継続に関する判定：計画継続（部分的な修正を含む）

(2) 付帯意見（概要）：

- ア 各山域における減少要因を解明し、具体的な保護対策を実施すること
- イ ライチョウサポーターズを積極的に活用するなど、現場での保護を担う人材の育成を図ること
- ウ 専門小委員会の意見に今後対応すること